

多くない。河原の場合イワツバメの巣が大量に作られている場所では、イワツバメの個体数が100羽くらいであるが、センサスコース内にコロニーをもつ種がいなかったため、出現個体数の合計が100羽を大きく超えなかった。イソシギ、イカルチドリのように河原の環境から出ない鳥が特徴であるが、カモ類やサギ類のように河原から出て他の環境に生活の場を求めている種は多い。これは、南箕輪村の天竜川が防災のために浅く広く流路が作られ、深い淵がないことが原因の一つと考えられる。

最後に、飛び地にある貴重な森林である。経ヶ岳の5合目付近や頂上部は亜高山針葉樹林の鳥類の生息域となっている。キクイタダキの出現個体数を除けば、出現種や個体数の上から、中・南アルプスの原生林と比べても遜色のない、豊かな鳥相である。

権兵衛峠付近は繰り返し調査をし、生息する種をできる限り見つけた。表の20種以外に10種の確認ができたので、30種以上の鳥が生息していることになる。カラマツの植林地が多いが十分豊かな鳥相である。

4 南箕輪村誌との比較

村誌編纂の調査方法と違いがあるため直接的な比較はできないが、今回の調査結果と比べてみた。今回の調査では、「鳥—19 村誌に出てくる鳥の現状」の調査中の出現種の欄に○印をつけた86種が確認できた。

出現種をみると、長野県の絶滅危惧種に指定されているササゴイ、チュウサギ、オオタカ、ハイタカ、ノスリ、イカルチドリ、アオバト、ヨタカ、サンショウクイ、ホオアカ、ノジコが確認できた。

カワウ、タゲリの2種は村誌には記載が無く新たに確認できた鳥である

生息の可能性が高いのに、今回確認できなかった鳥から説明したい。出会う機会の欄に「不定」と記した種である。

コハクチョウ、キレンジャクは、年によっては群で現れることもあるが、今回の調査中には確認できなかった。

オシドリ、ヒドリガモ、オナガガモなどのカモ類は伊那市街地の天竜川に冬季ふつうに生息している。確認することができなっただけで、実際には短期的に飛来していそうである。

コアジサシは諏訪湖にある程度の数が見れる時に、天竜川で観察されることが多い。箕輪ダムにいたり、調査回数を増やすと遭遇する可能性がある。

クマタカが権兵衛峠方向から西駒山荘の方向に飛翔するのが確認できたが、1回のみの観察のため、村内を利用しているかどうかは確かではない。経ヶ岳は植林地の樹木が大きく、伐採地や崖や裸地が少ないため、大型のワシタカ類は、権兵衛峠や経ヶ岳頂上のような見晴らしのよい場所でないといえることは少ないと思われる。

2009年8月に、けがから回復したハチクマを箕輪町で放鳥していることから、個体数は少ないが、まったくいないわけではない。

ツミは一番小さい鷹である。人家周辺の林に住むこともあるが、オオタカ同様なかなか出会うことの少ない種である。

コジュケイについては村外で声の聞こえる日に大芝公園、大泉川など生息可能な林で繰り返し調査を行ったが確認できなかった。コジュケイは一時減少した感があったが、このところ村外では出会う機会が増えているので今後、村内で大声が聞こえることが予想される。生息地が歩行しながら採食できる疎林、身を隠して大声で鳴くしつかり茂ったやぶなど、条件が整った林が必要になる。

ヤマシギ、タシギは、冬季天竜川にすることがあり、精査すれば確認できそうである。

フクロウは村誌に記載がないが、屋敷林の樹桐でも営巣できるので、情報収集をすれば、生息するか否か明確になりそうである。

ヤマセミは、東箕輪にいるが南箕輪での生息の可能性は低い。カワセミは三日町に営巣している年があり、村内に生息の可能性は高い。

シロハラは山林に近い、人家周辺にもまれに出現する。2008年に高遠町では死んだ個体が校庭にあり、村内にもいるはずである。

サンコウチョウについては、大泉ダム、大芝公園付近その他の暗い林を重点的に調べた。大きな声で鳴くため、発見しやすいにもかかわらず見つかることはできなかった。村内はアカマツやヒノキのような乾燥した明るい林が多いため、生息の適地は少ない。

「鳥－19 村誌に出てくる鳥の現状」記号の説明

凡例 1 種として取り上げたのは、昭和54年「南箕輪村誌」に記載された種に今回の調査で確認した種を加えた。

2 分類順と目・科・種は、「最新日本鳥類図説」内田清之助 講談社 昭和50年に準じた。

3 出会う機会は、野外で見つけられる程度の目安である。

多： 1時間で複数回出会える種 個体数が少なくてもよく見つかる種

中： 1時間で1回くらい出会える種

少： 希少種ではないが、たまにしか出会えない種

極少： めったに出会えない種 その年に南箕輪にはいないかもしれない種

？： 会うことが期待できない種。かも類については、年による変化が大きく天竜川などにいることもある。

不定： 出現する可能性はあるが、南箕輪にはいない年もある種

不可： 特殊な場合を除き、出現することが考えられない種

危惧： 長野県調査による、絶滅危惧種と準絶滅危惧種

4 生息の多い場所は、概ね出会える場所である。

山地： 経ヶ岳の上部を中心に種によっては、大芝公園などの林

山林： 経ヶ岳山麓や大芝公園の林

樹林： 平地の林を中心に、経ヶ岳山麓下部の林

平地： 経ヶ岳の森林以外の場所 農地・宅地・寺社や公園林 河岸段丘の林
ーなど

草原： 牧草地・畑・遊休地など

河原： 天竜川の河川敷と堤防外の裸地や雑草地

上空： 地面の環境は選ばず、上空に多く見られる

鳥ー１９ 村誌に出てくる鳥の現状

	目	科	種	出会う 機会	時期	生息の多い 場所	調査中 の出現
5	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	?	通年	水域	○
35	ペリカン	ウ	カワウ	多	通年	水域	○
42	コウノトリ	サギ	ヨシゴイ	危惧	夏	水域	×
43			オオヨシゴイ	?	夏	水域	×
45			ミゾゴイ	危惧	夏	水域	×
47			ゴイサギ	多	通年	水域	○
49			ササゴイ	危惧	夏	水域	○
51			アマサギ	少	通年	水域	○
52			ダイサギ	中	通年	水域	○
53			チュウサギ	危惧	通年	水域	○
54			コサギ	多	通年	水域	○
57			アオサギ	多	通年	水域	○
68	ガンカモ	ガンカモ	マガン	不可	冬	水域	×
70			ヒシクイ	不可	冬	水域	×
75			コハクチョウ	?不定	冬	水域	×
80			オシドリ	?不定	通年	水域	×
81			マガモ	多	通年	水域	○
82			カルガモ	多	通年	水域	○
83			コガモ	多	冬	水域	○
84			トモエガモ	危惧	冬	水域	×
87			ヒドリガモ	?不定	冬	水域	×
89			オナガガモ	中	冬	水域	○
92			ホシハジロ	?	冬	水域	×
95			キンクロハジロ	?	冬	水域	×
96			スズガモ	?	冬	水域	×
102			ホオジロガモ	?	冬	水域	×
104			ミコアイサ	?	冬	水域	×
106			カワアイサ	?	冬	水域	×
108	ワシタカ	ワシタカ	ハチクマ	危惧	夏	山林	×
109			トビ	多	通年	山林平地	○
112			オオタカ	危惧	通年	山林	○
114			ツミ	極少不定	夏	山林	×
115			ハイタカ	危惧	夏	山林	○
118			ノスリ	危惧	通年	平地	○
120			クマタカ	危惧不定	通年	山林	村外
121			イヌワシ	危惧	通年	山地	×
130			チョウゲンボウ	中	通年	平地	○

	目	科	種	出会う 機会	時期	生息の多い 場所	調査中 の出現
131	キジ	ライチョウ	ライチョウ	不可危惧	通年	高山	×
133		キジ	ウズラ	危惧	通年	草原	×
136			キジ	多	通年	草原・農地	○
143	ツル	クイナ	クイナ	?	夏	水田	×
146			ヒクイナ	危惧	夏	水田	×
149			バン	少不定	夏	水域	×
151			オオバン	?	通年	水域	×
153	チドリ	タマシギ	タマシギ	危惧	夏	水域	×
156		チドリ	コチドリ	危惧	夏	河原	×
157			イカルチドリ	危惧	通年	河原	○
165			タゲリ	少	冬	河原	○
172		シギ	ハマシギ	少	冬	河原	○
189			イソシギ	中	冬	河原	○
197			ヤマシギ	?不定	冬	不明	×
198			タシギ	?不定	冬	不明	×
201			オオジシギ	危惧	通年	不明	×
212		カモメ亜目	ユリカモメ	?不定	不明	水域	×
218			ウミネコ	不可	不明	水域	×
230			コアジサシ	危惧不定	夏	水域	×
253	ハト	ハト	キジバト	多	通年	山林・平地	○
254			ドバト	多	通年	平地	○
255			アオバト	危惧	夏	山林	○
257	ホトトギス	ホトトギス	ジュウイチ	中	夏	山地	○
258			カッコウ	多	夏	平地	○
259			ツツドリ	多	夏	山地	○
260			ホトトギス	多	夏	山林	○
267	フクロウ	フクロウ	オオコノハズク	?	通年	樹林	×
269			アオバズク	危惧	通年	山林	×
270			フクロウ	危惧	通年	平地	×
271	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	危惧	夏	草原	○
272	アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ	危惧不定	夏	上空	×
274			アマツバメ	中	夏	山地上空	○
275	ブッポウソウ	カワセミ	ヤマセミ	危惧不定	通年	河川	×
277			アカショウビン	危惧	夏	山林	×
279			カワセミ	中不定	通年	河川	×
280		ブッポウソウ	ブッポウソウ	危惧	夏	山林	×
283		キツツキ	アオゲラ	中	通年	山林	○

	目	科	種	出会う 機会	時期	生息の多い 場所	調査中 の出現
288	キツツキ	キツツキ	アカゲラ	中	通年	山林	○
289			オオアカゲラ	危惧	通年	山林	×
291			コゲラ	多	通年	樹林	○
295	スズメ	ヒバリ	ヒバリ	多	通年	草原	○
298		ツバメ	ツバメ	多	夏	山林・平地	○
301			イワツバメ	多	夏	山地・平地	○
304		セキレイ	キセキレイ	多	通年	山地・平地	○
305			ハクセキレイ	多	通年	平地	○
306			セグロセキレイ	多	通年	平地	○
308			ビンズイ	多	夏	山地	○
311			タヒバリ	?不定	冬	水田	×
312		サンショウクイ	サンショウクイ	危惧	夏	上空	○
314		ヒヨドリ	ヒヨドリ	多	通年	山林・平地	○
315		モズ	チゴモズ	危惧	夏	山林・平地	×
316			モズ	多	通年	山林・平地	○
317			アカモズ	危惧	夏	平地	×
319		レンジャク	キレンジャク	?不定	冬	平地	×
320			ヒレンジャク	?不定	冬	平地	×
321		カワガラス	カワガラス	多	通年	溪流	○
322		ミソサザイ	ミソサザイ	多	通年	溪流	○
323		イワヒバリ	イワヒバリ	?	通年	山地	×
325			カヤクグリ	?	通年	山地	×
326		ヒタキ	コマドリ	?	通年	山地	×
329			ノゴマ	?	不明	草原	×
330			コルリ	多	夏	山地	○
331			ルリビタキ	多	夏	山地	○
332			ジョウビタキ	中	冬	平地	○
333			ノビタキ	危惧	夏	草原	×
335			マミジロ	危惧	夏	山地	×
336			トラツグミ	極少	通年?	山林	○
339			クロツグミ	多	夏	樹林	○
340			アカハラ	少	夏	山林	○
342			シロハラ	極少不定	冬	山林・平地	×
344			ツグミ	多	冬	平地	○
345			ヤブサメ	多	夏	山林	○
346			ウグイス	多	通年	山林	○
351			コヨシキリ	危惧	夏	草原	×

	目	科	種	出会う 機会	時期	生息の多い 場所	調査中 の出現
352	スズメ	ヒタキ	オオヨシキリ	多	夏	草原	○
354			メボソムシクイ	多	夏	山地	○
355			エゾムシクイ	?	夏	山林	×
356			センダイムシクイ	中	夏	山林	○
358			キクイタダキ	少	通年	山地	○
359			セッカ	危惧	通年	草原	×
360			キビタキ	中	夏	山林	○
363			オオルリ	多	夏	山林	○
364			サメビタキ	?	通年	山林	×
366			コサメビタキ	少	夏	山林	○
367			サンコウチョウ	危惧	夏	山林	×
369		シジュウカラ	コガラ	少	通年	山林	○
370			ヒガラ	多	通年	山地	○
371			ヤマガラ	多	通年	山林	○
372			シジュウカラ	多	通年	山林	○
373			エナガ	多	通年	山林	○
375		ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	少	通年	山林	○
376		キバシリ	キバシリ	極少	通年	山林	×
377		メジロ	メジロ	少	通年	平地	×
380		ホオジロ	ホオジロ	多	通年	山地・草原	○
382			ホオアカ	危惧	通年	草原	○
384			カシラダカ	多	冬	草原	○
388			ノジコ	危惧	夏	山林	○
389			アオジ	極少	通年	湿地	○
390			クロジ	?	夏	山林	×
394		アトリ	アトリ	多	冬	山林・平地	○
395			カワラヒワ	多	通年	山林・平地	○
396			マヒワ	中	冬	山林・草原	○
398			ハギマシコ	極少不定	冬	山林・草原	×
399			オオマシコ	?	冬	山林	×
401			イスカ	?	夏?	山林	×
403			ベニマシコ	極少不定	冬	山林・草原	×
405			ウソ	少	通年	山林・平地	○
407			イカル	多	通年	山地・平地	○
408			シメ	中	冬	平地	○
409		ハタオリドリ	ニュウナイスズメ	?	通年	山地	×
410			スズメ	多	通年	平地	○

	目	科	種	出会う 機会	時期	生息の多い 場所	調査中 の出現
411		ムクドリ	コムクドリ	極少	夏	平地	○
412			ムクドリ	多	通年	平地	○
414		カラス	カケス	多	通年	山地・山林	○
416			オナガ	中	通年	平地	○
418			ホシガラス	?	通年	亜高山	×
421			ハシボソガラス	多	通年	山地・平地	○
422			ハシブトカラス	中	通年	山地・平地	○

ハギマシコ、ベニマシコは林道脇のヨモギなどの種子を小群で採食していることがあり、冬季から春先まで山林の調査を重ねれば、生息が確認できそうである。

南箕輪村にはアカマツの大木が多い。イスカは、アカマツの実をこじ開けて食べる美しい鳥で、大芝高原など見られるとよいが、今回の調査期間中は確認できなかった。

5 出現種の個体数

南箕輪村全体にどれくらいの鳥がいるか、理論的に算出する方法もあるが、今回は調査回数が少なく報告することはできなかった。総数に変えて、調査中に確認できたそれぞれの鳥の総数を「鳥ー20 調査地別出現種と個体数」に示した

人と共存しているスズメとムクドリが圧倒的に多い。人家の周辺に鳥が採食する場所が十分あることがわかる。

ヒガラ29羽に対し、シジュウカラ19羽でヒガラがシジュウカラの1.5倍になっている。ヒガラが平地にまで生息できていることと、村内の森林面積の広さのためである。

12ルートで71種、約1000個体は一般的な鳥類の量である。生態的上位にいるワシタカ類に興味はいくが、今回の調査では、チョウゲンボウ、ハイタカの2種2個体のみである。食物連鎖の見地から見ても、一般的な割合である。

鳥ー20 調査地別出現種と個体数

分類 順	種 名	住宅地		農耕地		森 林			河 川					種別 出現 個 体 数	その他 出現種
		密集 地	市街 地	水 田	牧 草 地 畑	大 芝 公 園	樺 兵 衛 峠	経 ヶ 岳 登 山 道	大 泉 川 下 流	大 泉 川 中 流	大 泉 川 上 流	天 竜 川 下 部	天 竜 川 上 部		
410	スズメ	86	35	12	73	1				2		3	4	216	
412	ムクドリ	18	15	4	61				5			5		108	
298	ツバメ	27	24		10				1	1		2		65	
314	ヒヨドリ	14	9			1		5	9	7	2	2		49	
421	ハシボソガラス	5	9	7	4	1			1	3		3	2	35	
253	キジバト	11	4		6	3	1	3		3		3		34	

分類	種 名	密集	市街	水田	牧草	公園	峠	山林	大下	大中	大上	天下	天上	種計	他
395	カワラヒワ	9	2		7	2			4	4		4	1	33	
301	イワツバメ						1		5			15	9	30	
370	ヒガラ					3	2	24						29	
82	カルガモ	2	1	2	2	2						6	8	23	
83	コガモ											19	4	23	
346	ウグイス						7	12		2				21	
352	オオヨシキリ				9							7	4	20	
363	オオルリ	1							2	5	12			20	
380	ホオジロ	1			1	2	3	7		5		1		20	
372	シジュウカラ	2			1	3		4	5	2	2			19	
109	トビ	3	2	4	2	1			1	1		1	2	17	
295	ヒバリ			2	9					5				16	
331	ルリビタキ							16						16	
304	キセキレイ	1							4	4	3	1	2	15	
369	コガラ						1	13						14	
57	アオサギ	1	4			1				1	1	1	4	13	
306	セグロセキレイ				3							5	5	13	
373	エナガ	3					2	7						12	
322	ミソサザイ							8		1	2			11	
405	ウソ							10						10	
291	コゲラ					2	1	7						10	
81	マガモ					2			1			5	2	10	
189	イソシギ											6	2	8	
47	ゴイサギ		7									1		8	
260	ホトトギス						1	7						8	
354	メボソムシクイ							8						8	
316	モズ	2			5					1				8	
321	カワガラス			6							1			7	
408	シメ								7					7	
253	ドバト		2										5	7	
305	ハクセキレイ		5										2	7	
288	アカゲラ	1			1	1	1			2				6	
136	キジ	2			2	1						1		6	
356	センダイムシクイ							5						5	
371	ヤマガラ						1	4						5	
416	オナガ									4				4	
308	ビンズイ							4						4	
414	カケス					1	1				1			3	
376	キバシリ							3						3	
366	コサメビタキ					1		2						3	
330	コルリ						3							3	
52	ダイサギ											1	2	3	

分類	種 名	人 家 密集	市街	水田	牧草	大 芝 公園	峠	登 山 道	大 泉 下流	大 泉 中流	大 泉 上流	天 竜 下部	天 竜 上部	種別 計合	他
53	チュウサギ			3										3	
422	ハシブトカラス				2	1								3	
157	イカルチドリ											1	1	2	
258	カッコウ	1			1									2	
339	クロツグミ					2								2	
345	ヤブサメ						2							2	
389	アオジ						1							1	
255	アオバト						1							1	
340	アカハラ						1							1	
407	イカル								1					1	
358	キクイタダキ						1							1	
360	キビタキ					1								1	
54	コサギ	1												1	
411	コムクドリ		1											1	
49	ササゴイ											1		1	
257	ジュウイチ							1						1	
130	チョウゲンボウ				1									1	
259	ツツドリ							1						1	
118	ノスリ				1									1	
115	ハイタカ										1			1	
382	ホオアカ									1				1	
135	ヤマドリ						1							1	
271	ヨタカ						1							1	
283	アオゲラ														ダム
394	アトリ														ダム
51	アマサギ														田畑
274	アマツバメ														ダム
112	オオタカ														ダム
89	オナガガモ														天竜
5	カイツブリ														天竜
384	カシラダカ														大芝
35	カワウ														天竜
375	ゴジュウカラ														峠
312	サンショウクイ														大芝
332	ジョウビタキ														南原
165	タゲリ														南原
344	ツグミ														南原
336	トラツグミ														経岳
388	ノジコ														峠
172	ハマシギ														天竜
396	マヒワ														ダム
	調査地別 出現個体数	191	120	40	201	32	33	151	46	54	25	94	59	1046	18種

ヒヨドリは水田・経ヶ岳の上部など生息していない場所もあるが、どこにでも出てくる鳥の代表である。牧草地・畑でも確認している。

キジバトはヒヨドリ以上に、どの環境にも適応しているので村内の総数は両種は同数ぐらいだろうと考えられる。

駆除の対象になるハシボソガラスは上位にある。カラスの体重は約400g。スズメの体重は約25g。カラス1羽でスズメ16は分に当たる。バイオマス（生物の実際の量）で見ると、カラス38羽はスズメ約600羽分になり、生物のエコシステムの上ではカラスが1番沢山いるという結果になる。科学の分野に感情を持ち込むのはいかなものかとは思いますが、現状の自然に問題を感じる。とは言え、カラスのみならず鳥の数は、人の数に比べればわずかな個体数で、バイオマスから見れば更に極々わずかな量である。

6 まとめ

- ① 2008年1月より2009年8月の間に 南箕輪村内で13目28科89種の鳥類が確認できた。
- ② 平地ではスズメ、ムクドリ、ツバメの個体数が多く、出現種の半数前後を占めている。
- ③ バイオマスではカラスが1位になると考えられる。
- ④ 平地では、水田地帯が出現種数、出現個体数ともに1番少ない。
- ⑤ 市街地は2番目に種数、個体数が少ない。
- ⑥ 人家の密集地であっても、屋敷内の樹木や周辺の森林や農耕地の影響で、鳥相は豊かである
- ⑦ 牧草地・畑は水田とは異なり、南箕輪の特性が表れた豊か鳥相をしている。
- ⑧ 大芝公園の林は鳴き声の美しい鳥や、池のカモ類など憩いの場所にふさわしい鳥相をしている。今後更に、種数や個体数が増える工夫をしてはどうか。
- ⑨ 経ヶ岳の鳥相は安定していて、種数、個体数ともに良好である。
- ⑩ 人の憩うための権兵衛峠付近、鳥の繁殖のための経ヶ岳登山道周辺と考え、それぞれに環境保全が望まれる。
- ⑪ 村誌編纂の頃と比べて少なくなった鳥はいそうであるが、不明である。新しく見られるようになった鳥は、カワウである。

7 南箕輪中学生による 環境調査

南箕輪中学校の科学技術クラブで、平成20年6月から7月にかけて、村内5カ所において、野鳥観察を行った。この研究は、科学的に大変高い評価を受けた内容になっている。

大変貴重な資料で、何年か後、南箕輪村の環境がどう変化したか比較できる内容になっている。今回の、鳥類班の調査結果とは異なる部分もあるが、この機会に多くの村民の皆さんに地元中学生のすばらしい環境調査結果として読んでいただきたいと考え、研究の一部をのせた。この文章は上伊那科学作品集に収録されており、本文や図表については、作品集からの一部省略して転載した。